

## 論文の要旨

ふりがな氏名	SALMA MOHAMED ABDELGAWAD MOHAMED サルマ・モハメド・アブドイルガワード・モハメド
論文題目	日本文化とエジプト文化における感謝表現の対照研究
<h3 data-bbox="746 757 917 795">論文の要旨</h3> <p data-bbox="217 840 1420 1182">感謝表現には人間関係を維持するコミュニケーション機能があり、いかなる社会においても他人から恩恵と利益を受けたとき「感謝する」という行為自体は世界共通に行われるものである。日本語とアラビア語エジプト方言における対照研究では従来から謝罪表現の語用論的機能についての研究が行われているが、両言語における感謝表現の文化的差異は十分に研究されてこなかった。本研究の目的は、①日本語とアラビア語エジプト方言の感謝表現における類似点および相違点について考察すること、②両言語における感謝表現を使用する際の思考過程について分析し従来から言語研究に用いられてきた「ポライトネス理論」の再検討を行うことである。これに加えてアラビア語学習者用テキストで使用されている感謝表現も分析する。</p> <p data-bbox="240 1234 871 1267">本研究は全8章から成る。以下に各章の概要を述べる。</p> <p data-bbox="217 1276 1420 1487">第1章では、研究内容と背景、研究の目的について述べた。日本語母語話者とアラビア語エジプト方言母語話者がそれぞれの言語を使用する際、場面ごとにどのように適切な感謝表現を使い分けているのかを(1)感謝表現の機能(2)感謝表現の形式(3)人称・呼称と感謝表現との関係(4)外来語由来の感謝表現(5)感謝表現と文化的背景の5つの観点から解明する。また、従来から言語研究に用いられてきた「ポライトネス理論」の再検討を行う。</p> <p data-bbox="217 1496 1420 1921">第2章では、語用論、ポライトネス、日本語とアラビア語エジプト方言における感謝表現に関する先行研究について整理した。日本語及びアラビア語エジプト方言のテレビドラマや映画で使用されている感謝表現を収集し、話し手・聞き手の関係を通して両言語で現れた感謝表現の使用を語用論の観点から分析した。テレビドラマと映画の中に現れる非言語的な感謝表現も考察した。テレビドラマや映画を選択する際には、最近のテレビドラマや映画を中心として選び、加えて会話の場面が自然であり、世代差が観察できることを基準とした。また、視聴率の高いテレビドラマと映画を主に選択した。視聴率の高いテレビドラマと映画は、人々に影響を与える可能性が高いと考えられるからである。収集したデータは、言語・非言語の面から分析することにより基本的な日本語とアラビア語エジプト方言における感謝表現の共通点と相違点を明らかにした。また、一部の場面では、感謝表現の機能が不明であるため、アンケートによる意識調査およびインタビュー調査を行った。</p>	

第3章では、エジプトのテレビドラマと映画における感謝表現を収集し、アラビア語エジプト方言での感謝表現の使用に関して分析を行った。特に、エジプト方言の中で使用される感謝表現とその機能について語用論的分析を行い、非言語的な感謝表現についても考察した。調査で談話を分析した結果、自分に利益がある場合、「*allaah yihallii-k*」「*rabbina yihallii-ki*」（アッラーがあなたに長生きを与えてくれますように）、「*kattar heer-ak*」（あなたの豊かさが増えますように）という表現によって、「相手へのプラス評価」のポジティブなポライトネスを表す。つまり、話者は相手に良いことが起こることを願うことを通じて、感謝を表明していることが確認された。非言語的な感謝表現について考察した結果、エジプト社会は感情を表に出す社会であることがわかった。そして、感情を表現することに抵抗がなく、感情表現が豊かであることが明示された。

第4章では、日本のテレビドラマと映画における感謝表現を収集し、日本語における感謝表現の使用について分析した。特に、日本語で使用される感謝表現とその機能について語用論的分析を行い、テレビドラマと映画の中に現れる非言語的な感謝表現についても考察した。日本語の一つの特徴として、感謝の気持ちを「すみません」「すいません」等の謝罪表現を用いて表すことが確認できた。例えば、何らかの利益を受けた相手に対するの負担に配慮し、謝罪することによって感謝を表すことができる。また、相手から何らかの行為を受けた場合「すみません、お気遣いいただき」という表現によって感謝の意を強く表明されることも示された。さらに、日本社会の日常生活においては「お辞儀」が最も多く見られた。他者との良好な関係を作るために「お辞儀」が必要であり、つまりそれは非言語コミュニケーションの重要な要素と考えられる。お辞儀は挨拶・感謝・謝罪等の様々な感情を表す非言語コミュニケーションであり、言語的な表現とともに多用されることがわかった。

第5章では、感謝表現の使い方についてアンケートによる意識調査とインタビュー調査を行い、日本語とアラビア語エジプト方言における類似点及び相違点を考察した。類似点としては、感謝場面における謝罪表現の使用が見られた。日本語では「すみません」が感謝の機能を持つという結果が得られた。感謝場面における謝罪表現の使用は、日本語の典型的な配慮言語行動の一つであると考えられる。アラビア語エジプト方言では、何らかの利益を受けた際、相手の負担に配慮して謝罪することによって感謝を表していた。感謝の場面で使用される謝罪表現は日本語もエジプト方言も同様であるということがわかった。ただし、エジプト方言話者と比べ、日本語母語話者のほうが他人から恩恵を受ける際に、感謝表現より謝罪型表現を多く選択する傾向が見られた。エジプト方言話者は、相手に直接感謝するだけでなく、「*allaah yihallii-k*」（アッラーがあなたに長生きを与えてくれますように）等のような表現を用いて、相手に良いことが起こることを願うことを通じて、感謝を表明している場面も多く見られた。そして、日常会話では、アッラー（神様）に対して「*al-hamdu li-llaah*」（おかげさまで）という表現で感謝の気持ちを表すということがわかった。

第6章では、両言語における感謝表現に対する文化の影響を考察した。具体的に、エジプト文化と日本文化が感謝表現にどのような影響を与えるのかを検討した。アラビア語エジプト方言における感謝表現の使用はイスラーム教と密接な関係があることがわかった。また、エジプト人に限らず、アラブ人は相手との会話で、「アッラー」について述べる。しかし、日本人の場合は、日常生活の会話では、「神」に触れることはほとんどない。つまり、日本人は日常生活の中で、人に対して「助かった」「お世話になります」「ありがとう」等の感謝表現を用いるのが当然であると考えている。

第7章では、ポライトネス理論を中心に、エジプト方言における感謝表現とその日本語訳との関係を再検討した。また、エジプト方言話者が感謝表現を使用する際の思考過程について分析した結果、エジプト人は日常生活の中でアッラーの存在を常に意識しており、人との会話の中でもアッラーに関する言及が頻繁に行われると言える。感謝、謝罪、依頼、不満などの様々な場面でアッラーの存在が意識されている。このため、ポライトネス理論を直接適用するのではなく、異なるアプローチや原理の適用が考慮されるべきであると考えた。

第 8 章では、結論と今後の課題を整理した。両言語間の対照研究としての本研究は、両言語の学習者にとっても参考になると考える。本研究ではエジプト文化と日本文化の特徴とその違いについても述べ、感謝表現の種類と機能を明らかにした。言語と文化は深いつながりがあることから、両言語・文化と社会への理解にも役立ち、相互理解に貢献する研究になることが期待できる。

対照研究を行ったことで、筆者は、母語（エジプト方言）について気づかなかった多くの点に目を向けることができた。特に、エジプト方言の感謝表現は日本語と比べて大変豊かであるということがわかった。今回の研究では、日本語の感謝表現に関して新しい発見は少なかったが、対照研究の重要性を再認識した。エジプト方言の感謝表現を考慮すると、ポライトネス理論の再検討が必要であると強く感じた。本研究を通じて、対照研究の価値と、異なる言語文化間での深い理解の重要性を改めて確認することができた。

以上のように、本研究によって得られた成果は言語研究ならびに言語教育に資するものと考えられる。

備考 要旨は、日本語 4,000 字以内又は英語 1,500 ワード以内とする。